

令和6年産 果樹情報（第4号）

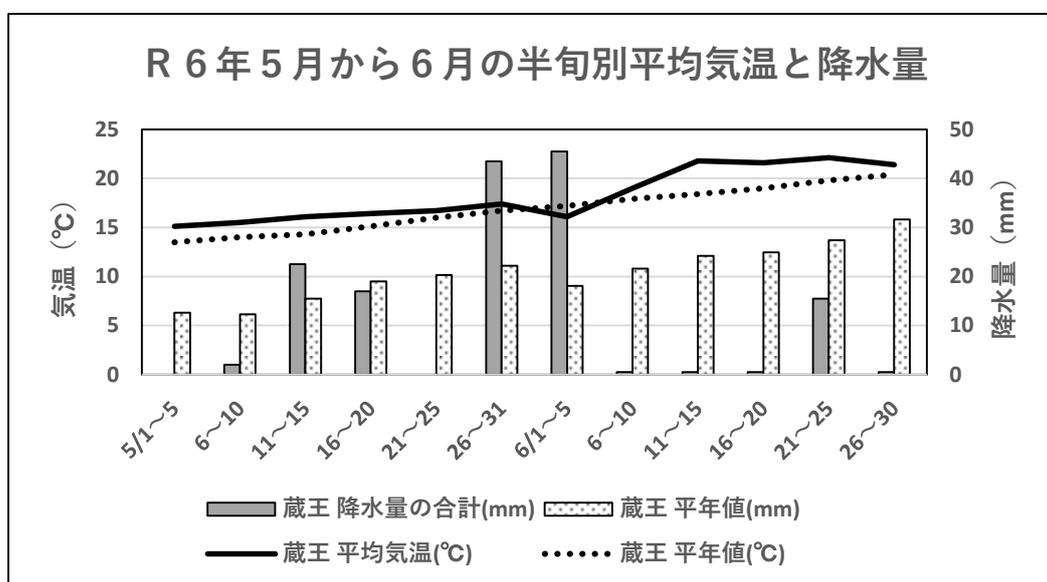
令和6年7月11日
宮城県大河原農業改良普及センター

7月から9月は、平均気温が高くなる見込みです。

- ・夏季管理を徹底し、降雨による停滞水は明きよを掘り、速やかな排水に努めましょう。
- ・高温により病害虫の早期発生や発生量、発生消長の変化が懸念されるため、自園での発生状況や病害虫発生予察情報等に留意し、適切な防除に努めましょう。

1 気象経過

6月は、晴れの日が多くなりましたが、上旬は所々で激しい雨となる日もありました。月平均気温は「かなり高い」、月降水量は「平年並み」から「かなり少ない」となりました。（仙台管区气象台IPより）。



2 果樹作況調査ほの果実肥大状況

肥大状況は良好で、いずれの樹種も平年を上回っています。

表1 もも（7/5調査）とりんご・なし（7/10調査）の果実肥大状況（単位：mm）

樹種	品種	調査地点	令和6年		令和5年		平年値		平年比(%)	
			タテ	ヨコ	タテ	ヨコ	タテ	ヨコ	タテ	ヨコ
りんご	ふじ	白石・郡山	48.4	53.9	53.9	57.9	48.1	51.0	101	106
なし	幸水	角田・豊室	50.0	52.5	51.5	52.9	38.7	45.1	129	116
		蔵王・高木	40.2	47.4	45.5	45.8	35.5	40.7	113	116
	豊水	角田・豊室	48.1	51.6	54.6	52.8	38.5	42.2	125	122
		蔵王・高木	40.5	43.2	44.6	46.0	35.0	37.7	116	115
もも	あかつき	丸森・舘矢間	63.6	64.3	65.4	66.7	52.7	53.9	122	121

3 樹種ごとの管理

(1) りんご

イ 修正摘果

- ・果実肥大や果形、障害果などが区別できる時期なので、小玉果、変形果、病虫害被害果、さび果は取り除きます。
- ・果そう葉が少ないと小玉果になりやすく、また、長果枝先端の果実は青実果になりやすいので着果量が多い場合は、優先的に摘果します。

ロ 夏季管理

果実の肥大に伴い枝が下垂するため、支柱立てや枝吊りを実施し、樹冠内部の受光体制の改善や防除効果の向上を図ります。併せて、徒長枝切りも行いますが、細い枝を少し残すなど果実や骨格枝の背面に日焼けが発生しないように注意しましょう。

ハ 病虫害防除

・斑点落葉病、褐斑病、輪紋病

病虫害防除所の巡回調査(7/8 発行、以下同)では、斑点落葉病や褐斑病の発生が「やや多～多」となっています。気温 20℃前後で降雨が続くと急増する傾向があります。発病した徒長枝は取り除き、園外で処分してください。

輪紋病の果実への感染は、6月中旬から8月上旬の降雨の多い時に起こるため、いぼ皮病斑の多い園地では、枝幹部にも十分薬液がかかるよう予防防除を実施します。

・ハダニ類

病虫害防除所の巡回調査では、「やや多」となっています。ハダニ類は、梅雨明け後、高温が続くと発生量が急増するので、1葉あたり1頭確認されたら殺ダニ剤を散布します。除草作業と殺ダニ剤の散布日が近接する場合は、除草作業の数日後に殺ダニ剤を散布します。また、ナミハダニは雑草から移動し加害することがあるので、隣接地の発生状況にも注意します。

・モモシンクイガ

管内では7月～9月まで発生が続くので、定期的に防除します。産卵場所となりやすい「がくあ部(果頂部)」を観察して産卵期を見極め、適期(産卵盛期)に防除してください。

(2) 日本なし

イ 修正摘果

「幸水」では7月中旬が裂果発生時期となるので摘果は一時控えます。裂果が収束したところで、小玉果、変形果、障害果等を取り除きます。「豊水」ではスジ果や小玉果を中心に着果量の見直しを行い、軸折れ果を確認しながら見直し摘果を実施します。

ロ 病虫害防除

・黒星病

一部地域で黒星病の発生が増加しています。病斑のある葉や果実は見つけ次第取り除き、処分してください。「幸水」の感受性は、満開後 50～90 日頃に高まります。

発生が多い場合は、DHODHI 剤(ミギワ 20フロアブル 4000倍)、QoI 剤(スクレアフロアブル 3000倍)、SDHI 剤(カナメフロアブル 4000倍)のいずれかを散布し、薬剤抵抗性の発達防止のため、SDHI 剤及び QoI 剤は、同系統を含めて年間 2 回以内、DHODHI 剤は、年間 1 回の使用とします。

・シンクイムシ、ハダニ類

これから夏期にかけて発生が多くなるので、ほ場内を見回り、発生初期に防除を実施します。一部殺ダニ剤で効果が低下している事例があるので、寄生種をよく確認して薬剤を選定し、散布後の状況をよく観察してください。

・果樹カメムシ類

病虫害防除所の巡回調査では、発生量が「やや多」となっています。果樹カメムシ類は、春季から秋季まで長期間にわたってほ場に飛来するため、成虫が見られた場合は速やかに防除しましょう。

(3) もも

イ 中生品種の収穫前管理

今年も収穫期が早まっています。支柱立て、枝つり、葉摘み、反射シートの設置は遅れないように計画的に行いましょう。

ロ 病害防除

・せん孔細菌病

り病部は二次伝染源となるので、見つけ次第せん除し、園外に処分します。収穫後の9月上旬頃から2週間間隔で2回、発生が多い場合は3回防除を実施します。

4 高温対策について

- 病虫害の早期発生が懸念されるため、園内での発生状況や病虫害発生予察情報等に留意し、適切な防除に努め、罹病部位の除去等を徹底する。
- 草生園では、草生の刈り取り回数を増やし（草丈15～20cmを目安）、樹と草との水分競合と蒸散を防ぎ、刈り取った草は樹冠下に敷草する。
- 不要な徒長枝は切除する一方、主枝や垂主枝の背面から発生した細めの枝などは適宜残し、直射日光が当たらないようにする。また、各種資材による遮光や白塗剤の塗布など日焼け防止対策を講じる。さらに、着果過多の場合は、小玉果や障害果を中心に修正摘果を実施して適正着果に努める。
- 病虫害防除では、農薬の使用基準を順守し、薬害リスクの高い日中の高温時の散布を避ける。
- ハダニ類の発生には特に注視し、発生初期の防除を徹底する。
- 土壌条件によって異なるが、7日程度無降雨状態が続いた場合、20mm（20 t /10a）程度を目安にかん水する。
- リンゴでは、マルバカイドウを補助根として使用していないM. 26やM. 9が台木で、穂品種が「つがる」、「ジョナゴールド」、「王林」などの場合は、乾燥の影響を特に強く受け、樹勢が極端に低下する場合がありますので、かん水設備がない場合でもスピードスプレーヤ等で水を運搬してかん水することが望ましい。
- 成熟期の果実の着色不良に対して、リンゴでは適切な栽培管理による樹冠内環境の改善や反射シートの活用を行う。ただし、リンゴでの反射シートの活用は、日焼け果の発生を助長することがあるので注意する。
- 果実の着色不良で過熟とならないよう果実の品質（糖度や硬度）や食味等を考慮して適期収穫に努める。

（令和6年6月25日 宮城県農政部農業振興課 高温に対する農作物等の技術対策情報）

農薬危害防止運動実施中！

宮城県では、6月1日から8月31日を農薬危害防止運動実施期間と定め、農薬の安全・適正使用を推進しています。農薬による事故を未然に防ぎ、消費者の皆さんに安全・安心な農作物を届けるため、農薬は適正に使用しましょう。

- ① 適切な防護装備の着用を徹底しましょう
- ② 土壌くん蒸剤を使用した後の適切な管理をしましょう
- ③ 住宅地等で農薬を使用する際には、周辺への配慮及び飛散防止対策をしましょう
- ④ 農薬の保管管理を徹底しましょう
- ⑤ 農薬容器のラベルをよく読みましょう



農薬危害防止運動
リーフレット